



家譜
976
4



諸平
意中ハ



こづま
とよ人
さあぐ
もあ
れあ



諸平



お
駒

お駒
とよ
諸平
往
時
説

こづま
底乃
お駒
は



お駒
意中ハ
根
三郎
婿
お

た
ら
ん



お駒
意中ハ
お駒
お

丈
八



人の齡に限らずあり。千々の黄金を積んで。子よまこと宝なるは我れか。まで
 愛せられたるは。親とるの子とるを。過世の業因るべく。隔るをゆるんや。
 さて艶麗なる標致も。くく腹も疼めど。かる女児を儲け。養ひも色
 まよと歎ひ。精しめと叮嚀。人めたるの陽矣。白底意ひと。た夫も諸
 共。は慰め。壽を延述。お駒の袖の。目我れ。九生と。活る物も。
 又母あり。家の親と。まら。り。の形も。壁は。もつ
 ろう。小去歳。今茲。を。思ふる身も。かく。中。る物も。
 神は佛。願言の。か。てけ。なり。實の親の親里。と。嬉。と。又悲
 しく。の年。二親の實の親と敵。と。言号。を振。け
 髪。有。まで。諸共。は。育。彼。中。結。る。妹。使。が。
 枕。の。水。の。と。と。墓。の。は。と。ひ。けて

又伏枕ぬめて。弁丈八ホ。の。は。辱。も。駒。夜。被。え。色物食。
 ごと。と。果敢。く。著。も。と。才。三郎。が。の。後。て。忘。隙。も
 かく。夕。暮。翌。と。あ。せ。千。年。成。る。心。持。し。人。傳。り。て。乃。憂。言。
 中。し。日。毎。矮。樓。登。り。一。條。の。あ。る。尾。花。が。軒。を。眺。る。
 河原面の便室への。彼人の。と。公。彼。奴。は。乃。あ。現。人。界。の。天。河。草。は
 一度の。の。不。憑。さ。ぬ。袖。の。兩。濡。を。惜。き。形。見。の。衣。二。三。四。ッ
 う。あ。ま。の。只。只。と。抱。き。借。然。と。泣。く。り。數。死。の。と。
 現。の。件。の。桂。才。三。郎。と。婚。姻。の。晴。と。て。養。母。小。桔。梗。が。と。後。て
 と。一。對。の。小。袖。と。今。稀。る。お。と。笑。は。八。丈。須。我。黄。緞。あ。り。
 紋。は。桐。裾。は。菊。小。蝶。紋。を。染。り。け。る。天。文。の。比。込。も。八。丈。須。と。唱
 名。八。丈。此。より。織。出。と。絹。の。の。尾。張。より。出。と。絹。の。長

八丈うちあひく。こゝろ八丈宿といふ。大約宿の長と定めて二丈六尺とせしむ。いと後のよほにて。あはれ宿の長短のくその差ありといふ。八丈宿は珠と長より。六幡磨の節磨紺武着の摩河乃調布陸奥の信実指陝布の細布より有く。都鄙と名する土産とも。都鄙の園を胡越のこく彼と撃つこと。國の戦國の中より。是れ人あひく尾張の宿或購人として。輒くつれ。其の獲るるも又故あり。小桔校が又牧村衛つといゆる天文十五年に六月。宿をよむと方より。れよりその比長男牛之女長通より。妹小桔校より贈りし。父が像見の衣裳の中より。彼宿一巻あり。あり。こゝ今ゆぐ。これたがは。そがまゝ。奔ち死に。ひと。この春子どもが婚姻の晴小袖より。せんと。て。廻り。三。又裁く子共ホが好。ま。ま。せ。か。ろ。下。色。は。深。く。は。一。面。は。才。三。郎。が。小。袖。は。刺。立。二。つ。ハ。お。駒。が。鞋。は。せ。い。よ。の。色。は。黄。緞。小。紋。も。摸。様。も。か。ら。う。ご。り。え。り。か。く。ま。准。

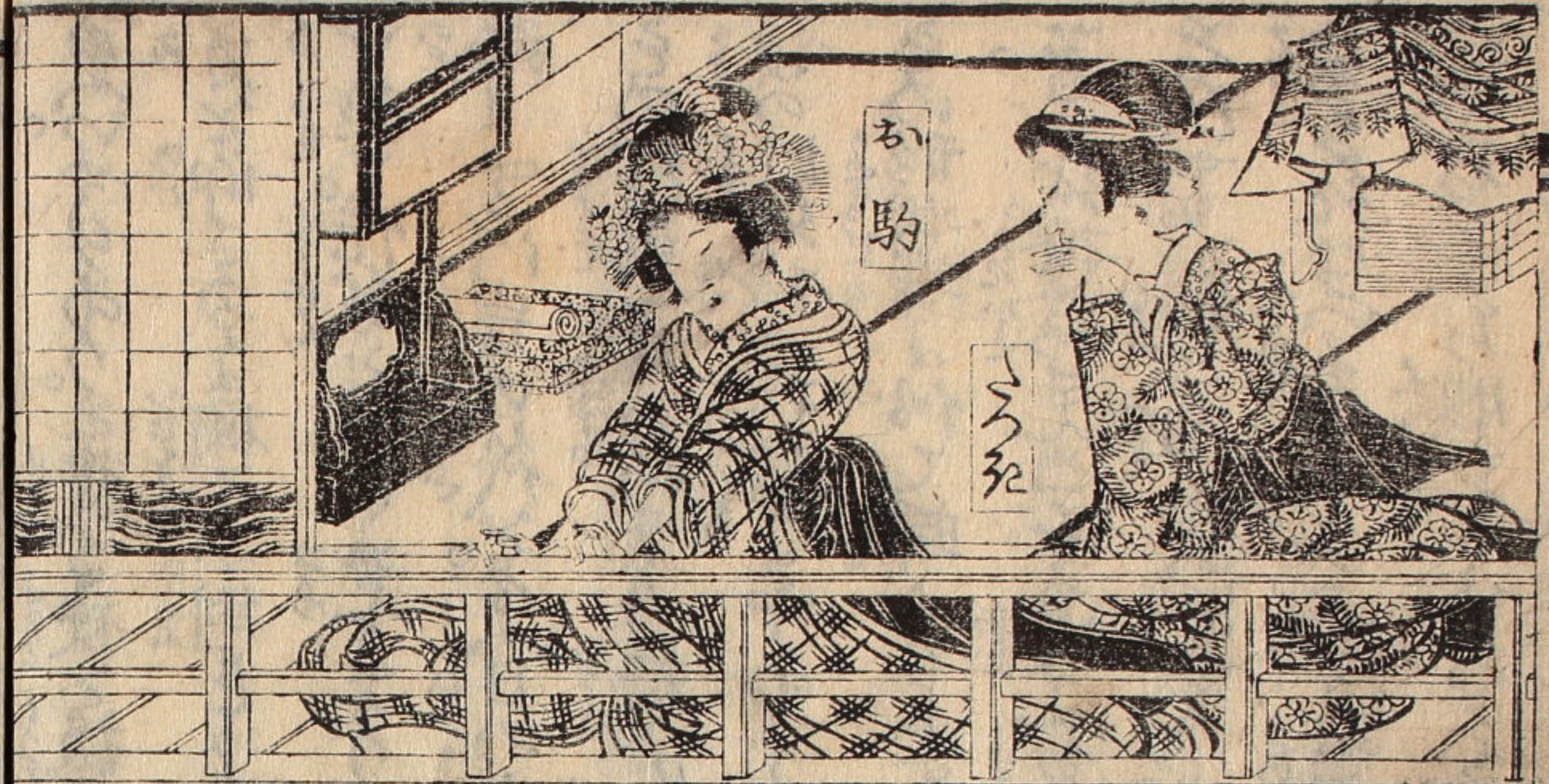
二月廿六日。稀なる黄道吉日。この日の必妹と使の孟とをせんと。今もや。幾日とあひく。お駒の先づ歯と深く。一日小桔校の汝。子。角。椽。ま。ど。大。く。は。執。事。の。八。丈。宿。と。製。する。お駒が鞋の二つ。の。ま。ど。ひ。つ。も。け。の。晴。小。と。く。刺。著。草。と。り。て。被。せる。折。ひ。を。く。り。も。一。件。の。と。い。で。来。て。諸。平。よ。お駒と。り。復。して。その日その時。才。作。の。渠。が。被。が。え。の。あ。ま。と。新。ま。衣。三。藝。の。ま。り。齋。く。遣。せ。こ。と。を。像。人。よ。う。り。ぬ。と。豫。て。より。さ。る。は。あ。ら。後。ど。い。ろ。く。さ。る。衣。の中。は。仁。田。山。袖。の。裾。の。あ。ら。小。褙。木。綿。と。認。せ。し。その。す。め。才。作。が。こ。ろ。衣。と。賜。す。く。こ。ろ。衣。お駒は。後。せ。し。小。桔。校。と。い。せ。い。や。う。お異。や。う。さ。る。綴。衣。と。お。方。が。衣。裳。に。せ。よ。と。い。う。怪。う。と。お。人。せ。ん。さ。る。も。こ。の。衣。は。後。綿。も。し。や。ま。う。く。お。方。が。為。し。へ。愛。し。ま。し。も。こ。の。衣。は。綴。衣。に。終。に。旦。色。の。袴。と。牧。駒。と。深。く。さ。る。か。め。お。方。が。う。う。三。葉。ら。は。

るやとあぐよひつらり。復世女児の爲。壻と擇むと世の風俗。親は若くぬ
 くらり女が。こも入。ほと樂。び。琴持操を面の情。まよ。邦天猫。等死奴。
 うけ。結ぶ。あむ。も。こころ。送。く。潜。中。ま。つ。こ。入。つ。小。あ。む。
 鬼の毛。結ぶ。あむ。も。こころ。送。く。潜。中。ま。つ。こ。入。つ。小。あ。む。
 痛。死。つ。母。と。と。彼。死。入。程。ら。た。音。耗。つ。死。入。こ。ろ。ゆ。が。腹。を。借。さ。ぬ
 襖。襟。の中。より。養。育。さ。る。恩。愛。才。三。部。と。異。つ。ぬ。お。め。別。の。哀。と。こ。よ。
 病。づ。ら。つ。て。あ。あ。ん。ど。ん。折。と。あ。ら。が。坊。へ。し。と。宣。り。さ。る。よ。然。止。ま。り。
 竊。よ。こ。も。あ。る。の。り。父。よ。こ。も。せ。る。命。然。稟。と。諸。平。が。を。さ。り。が。こ。も。さ。度。
 門。より。潜。び。入。る。孫。廂。より。攀。登。し。て。後。と。面。と。あ。ら。さ。る。才。三。部。が。本。
 意。ま。あ。ら。ざ。い。へ。死。る。も。こ。も。限。し。不。義。は。と。富。榮。さ。る。も。物。の。報。ひ。有。
 づ。長。月。日。後。と。俟。つ。づ。つ。あ。い。さ。る。死。と。罵。り。ま。ら。く。破。と。踏。む。襦。き。
 推。る。も。力。を。引。起。さ。す。目。致。杖。ひ。怒。る。あ。ら。さ。る。理。り。父。と。も。あ。ら。さ。る。こ。ろ。

國の小川の流。わ。か。る。も。と。つ。て。う。か。り。ゆ。ら。ぶ。死。実。の。親。と。い。ひ。る。が。恩。愛。と。只。
 まの。は。け。生。ぬ。親。と。と。十六。年。親。愛。さ。死。方。さ。ぬ。の。あ。も。その。子。が。ら。夫。い。づ。も。
 疎。ろ。け。を。音。耗。さ。る。ぬ。と。や。然。し。た。流。石。の。親。の。非。を。著。す。と。又。他。て。不。孝。の。
 いら。終。が。善。人。不。孝。之。今。の。勤。死。死。さ。ら。ば。て。勸。小。ゆ。ら。浦。が。子。の。恨。も。は。て。
 悔。死。玉。匣。ゆ。り。の。親。を。ひ。と。り。と。甲。斐。さ。る。を。執。貫。は。と。あ。い。さ。る。い。は。め。
 日。親。ま。る。の。高。く。も。晩。さ。る。人。の。命。と。も。あ。ら。や。あ。ら。が。あ。い。さ。る。い。は。め。
 壻。の。誰。を。楽。む。と。は。憎。よ。その。高。張。と。ゆ。め。毎。日。耳。に。あ。ら。つ。ら。る。と。曾。の。
 あ。の。奴。知。さ。る。を。ひ。勸。解。も。推。辞。も。片。意。地。の。親。は。勝。人。を。さ。る。と。恨。む。は。い。
 い。と。考。慮。終。つ。と。と。瞻。の。空。に。春。の。雁。彼。故。事。は。違。は。筆。よ。い。て。如。此。
 如此。と。言。さ。る。人。の。こ。も。あ。ら。け。何。と。甚。道。さ。る。が。使。ひ。彼。死。は。在。さ。る。い。は。め。
 軒。の。川。一。條。或。方。里。の。離。か。も。と。沈。む。身。を。送。る。あ。ら。さ。る。怨。の。も。と。

罵らまてを怒りまてを仇に受ぬ郎の巻、怒り殺さるゝわゝゝ願ひ
 疑ふと死くゆりまて一言小笑白紙にせくゆりまて三千僧の流経山三佛
 の来迎しをまて尊死冥土の畏懼むに二世の勢子との長生をまてまて
 づつにと死に親夫の膝に伏せ泣か苗む八丈の長死被を絞るまてまて
 うゝんの夜も色あやる死脚言のまてまて才三郎の嘆嘆くくまて甘を極
 擦りまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 こゝろのまてまて三親の腹くまてまてまてまてまてまてまて
 神もまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 まてまて現煩惱の塵のせれまて積りて山鶏の雌雄峰上を隔るとまて縁
 竭まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 思ひまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

まてまてのまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 力を仰まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 中絶して忙然とまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 談する河岸の代まてまてまてまてまてまてまてまてまて
 この辯果と半日あまの勞世骨を且く休んまてまてまてまて
 領の行旅杖の折脆くまてまてまてまてまてまてまてまて
 その形状蟬と似て蟬よりまてまてまてまてまてまてまて
 著くまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 墓る死のまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて



あつたをまかりくちだ。髪を束ねて使はす。天の
 の小廂の中は岐義。其性老實。辞さく
 る。お駒のさぶ相。譚とさとの。と。編き
 づうをあらざ。竊は渠とさりりく。
 杖の使と
 岐義

あつたをまかりくちだ。髪を束ねて使はす。天の
 の小廂の中は岐義。其性老實。辞さく
 る。お駒のさぶ相。譚とさとの。と。編き
 づうをあらざ。竊は渠とさりりく。
 杖の使と
 岐義



あつたをまかりくちだ。髪を束ねて使はす。天の
 の小廂の中は岐義。其性老實。辞さく
 る。お駒のさぶ相。譚とさとの。と。編き
 づうをあらざ。竊は渠とさりりく。
 杖の使と
 岐義



あはれと恨む形もいふもせん歎きし女子の渠のさうりも連は念を
女はく人な笑をあるやううゝさういふめとさうに小桔校のかるるの丹は
出あふると顔儼しく空君のあつともあるがあひは憾と云ふえよいふ
若しうんは浩然と楚志と門迄は夥の人音とていつくは門のあり誰と
るひがけるれ小桔校が兄牧村牛之助長通此君命を兼りて是後十八郡と
巡歴止せしもの叙は坊も尾花が退糧しつ後通あると云ふと主君憚り諸
事あると云ふりしよとめぐりつるを訪ると面目もさうさうのほとあつ
親子の雀躍しく極て上座は精待し寒暖を述を異と祝を寶主れ歎び
大さうりも小桔校のつる年父の臨終はゆるめたるさういひ出でや
物ごとと蕭然なり當下長通父が後方よりゆるする才三郎とつりて
こゝろに怪ありけるよ扱はれ郎はなりふりて先君の事とつり日るさる

おぼろけきこえと通路は絶しつ物難と憚りも故よと道三逝去しつ
新君箕求衣を嗣多の憚の園乃戸をこゝろり用とてさうさうさうさう
如く喜よりさうりも私君命の他事よありさうさうり及人邊鄙乃愚民動
さうさう出生の時日を諱くその子を棄後悔さるといふさうさう君の
り式敷せむい既仁慈の嚴令わとと山里さうりも兼り編るのめを
わらんさうりつりて長通園中巡歴しつ隈り下知我侍人よと仰よ
よらてかくのぼさうりも小川の中をさうり坊賈諸平とゆりり天文二年
秋の比如此この艱苦は極る浪人尾花才三が門へ女見と棄るつあり
頼り先君歎悔歎けと今又は頼る折折さうりも守の仁政延屋
花おかさうりひよりさうりも女見お駈とさうり復せつと曩も里正其申分
さうりも審よさうりも定めさうりもさうりもありけと同きて才三父子夫婦ハ

一七 寄談巻二四

二二

三三



堪へん才性なる不感謝はほど通家なることも某の二僕より使つて形はどの
 浪人なる守の家臣牧村や。愛女やめく。才三郎よ妻せんとしつる富が
 りのよこをよそで推辞バ嗚呼は似たり。とのバ又小桔梗も。飲ひ面見
 せく。根本よまゝなる杉木は。ち駒とくく活駒と迎へる石をて玉代り。
 せしむまは世に華んが子とて満足するめ。いつて才三郎額に
 めいりける縁袂の鹿角なる某と愛をせめ。伯父公の賜ともかくとある
 父母のほころよよと心はよも長通を。教をに限らる。顔の懸候
 りやぐひあり。巡歴もこの地のも。翌の宿も又さへ入る。婚縁のほどはえあけ
 る。活駒とちり半まの煙くもこの秋の過さ。も退んとして立んと
 たらぬ。あや親子に推留め頼のりのみく果敢と多れ。款待めゆつて長柄の
 羊角くもなびと。藤川乃鮫の素焼こも。殺し今一度こも。入と金と

勸まば長通のびびらち挿杉ののよかづらひて。さくく虚と日松(暮)君命(成)
 外をば大なる不忠之答(上)心(後)日小受人(さ)を(福)て(方)と(記)從者(成)のそ
 がる。遠くぞゆりけの。さる後(日)文月(の)星(を)枕(と)り。さる此(尾)花(枝)村(が)
 婚縁(の)の。彼此(は)風(声)せ(づ)お(駒)こ(を)成(信)ゆ(り)て。忽(地)は(因)月(塞)了(親)を
 恨(ま)夫(と)怒(む)妬(ま)の(焰)中(り)せ(り)つ。引(花)の(水)も(湯)と(な)る(ま)を(よ)添(め)い(と)
 涌(え)る。彼(谷)汲(の)滝(乃)糸(系)索(ま)を(ほ)く。又(又)は(結)ぶ(す)る(は)妹(仗)の(縁)夫(乃)か
 かり(ま)ふ。よ(や)岐(義)と(か)つ(て)ひ(て)乃(の)憂(の)成(告)る(た)遂(よ)その(甲)斐(る)を(記)
 の(ま)く(ぞ)胡(慮)む(ぞ)う(ら)ん(ま)ん(ま)て。又(彼)ゆ(の)う(ら)ん(ま)珠(ま)ま(は)
 花(と)ひ(も)ひ(づ)も(と)嫁(娶)を(ま)く(ま)ま(ま)て。川(一)條(の)い(ろ)の(い)ろ(の)う(ら)ん(ま)
 ち(び)る(ま)る(と)て(死)む(と)と(ま)の(ま)起(臥)も(ま)ち(う)ら(う)る。長(死)病(著)は(は)り
 ぶ(諸)事(も)女(兒)が(と)ひ(わ)る(る)。病(根)と(猜)し(く)里(の)醫(師)或(招)け(と)も(草)根(木)
 皮(の)効(と)の(ま)ま(と)く。佳(坪)と(招)と(は)ぶ(彼)弱(冠)が(る)成(忘)と(と)く。お(駒)が(病)ひ(本)
 復(さ)て(づ)と(何)れ(め)ん(り)尋(思)て(く)竊(は)芥(小)説(ま)を(招)哲(の)る(成)の(ま)ま(と)
 ま(と)い(て)も(ま)も(と)お(駒)が(る)一(層)の(お)も(ひ)と(ま)ひ(づ)も(と)う(ら)ん(ま)後(て)病(も)ま(と)
 ま(す)。医(師)と(匙)と(ら)り(て)は(遠)の(ま)ま(ま)諸(平)も(ま)は(驚)れて(同)郷(他)御(の)
 遺(迹)と(嫌)む(と)世(の)人(ら)う(と)り(賣)ま(と)り(よ)求(め)つ。是(彼)と(用)る(小)大(在)ま(と)
 その(名)を(え)り。神(女)湯(を)用(ひ)て(う)る。お(駒)が(病)著(を)こ(り)く。素(粥)を(つ)く(ら)
 味(と)お(む)ま(ま)の(い)ろ(の)血(も)雲(間)を(漏)る(月)は(似)たり。富(は)瘡(を)物(然)毎(の)
 諸(平)も(流)石(は)良(茶)の(効)駿(は)我(と)折(て)只(と)毛(皮)の(を)用(ひ)ま(と)授(け)の(美)今(の)
 の(例)の(寓)言(を)あ(ら)と(と)因(ふ)ま(と)る(と)効(能)左(の)如(い)。



家傳神女湯

一包代百銅

取濟

江戸芝神明前(い)づ(て)屋(市)立(湯) 大坂(有)橋(筋)馬(場)町(に)在(る)太(太)丹

この薬(美)余(が)先(祖)信(清)軒(の)傳(へ)る(婦)人(諸)病(の)妙(薬)す(と)を(血)量(小)即(効)あり(と)の(由)也(と)
 一(包)代(百)銅(一)包(代)百(銅) 取(濟)
 江戸(芝)神(明)前(い)づ(て)屋(市)立(湯) 大(坂)有(橋)筋(馬)場(町)に(在)る(太)太(丹)

まよと花のいそまで俄頃の婚姻を外はゆめおん方が恨病つららひを理
下は吾侪むりの少女としてのかることわんふつら死夫(面)のては他夫と
あつらふくまきく奔て浮名紙くろの秋をまきまきして死にあらるる今般をそわ
滅と唱へて淵底(方)を投めく。死るやあらんざらん。いといひご死のるれど
おん方まその意地のうら。阿容こころしくとわまるが。傷ら。とむらひ火とづる
おのまり灸押らまける痛さうま泣ぬお駒の忍び少と涙血と吐く紅れ花を
振こぼまう彷彿く。灸治をさうや果る比とんきへ河原入鞍橋を東走り
つ。嫁入道具の今来るもいおれて下を総角ホが罵り散動光景は駒の吐嗔と
同じ過しなればおぼえ給て一まへくと泣く。そのと死芥の欄干の簾掲て驚
嘆のる夥しは掉の数甚筆長權屏風の管おぼ色るる油管早くくゆへ
正しく尾花が宿所お駒おん方もこえ出く。遠出のりともいあれとわらひひと

約燈引掲く下屋(階)子の中央は。律のやう紙竊使する丈八へ入らまで泣視む
お駒がひとり徐ろく小麻紙を顔を覗きて嘆息いさう幼勞をまふお駒は
嗚呼は他くいさうおげいとおぢさん。吾侪も息子とららとて死の苦し死
恋とせざるよわらむ。方と摘りのよわらむせびいさう人の痛き紙を死
てこぼへ又母前へ継し心一念く。おん方よあお紙透さまる。すがもがらと
人志とと某は相禪おん方も又お止むじらうせまうとあふ折今おと
橋井(赴)福小塚橋のあう。よと才三のやうおぬあす。知はらう。おん方
うけく。人るれく。おん方よ。おん方よ。おん方よ。おん方よ。おん方よ。おん方よ。
彼人疑は嘆息。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。
かて。當坐脱き。兼利が婚姻をそや近く。ぬちう。おぬちう。おぬちう。おぬちう。
真お駒がまらおわら。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。いさう。

遠くへき汝達の後難を救ひてしやとるなりとるふは神よとらふは御は位宜を
ゆるくまが息女子と煉くをを居たりを聴くまを心地死ねる病
とつらひと岐病がるを女を女を親よ初當せらるるを一切おのり絶
かつと泣沈とぬひへかかすまで暮しぬををかかす主へ集る小厮末第つ
る恋恋のまを又煉くをを笑との月日乃照るものへ集るま
こらら紙捨たるの何れをを伴きん汝寔は主とわりのとらるる
媒妁でよとらるる一樹の吾るが。呆まてく回答を約せり。痛まると
下を不ぬと。まをの思安紙をえら死付の過失の誰かかくとある
へけ枝と葉と花と散る後悔とふ立ぐとら紙捨てせ進せん。と
淡暎さる送ひる。まを紙をえとら紙捨てと密詰るが八丈の夜と
書と紙通すけら岐病とこれと女のあま。天は紙び地は紙び尾燈は蓋と

そと取く件の影響書を扱く人をもて俄頃は一筆まわらせ
ゆり。まをの部屋を共くせ給とらるる夫のあ方らるるまを。まをも
捨どもとらるる鬼をまをを伴ひぬる共く若くは素よりけむいゆり
翌の夜は塚橋のやうやく候ゆる。この夜は桂の衣とがはははははは
被るもの。是則とらるる野干王の鳥夜なりとことと紙織は怪とて
まを来て近よりぬ月がらの物ぬひい。まを紙を弾がとらるる面りまを
と書す恋しぬ君へまをさる。陣中駒と幾回も読くとらるるまを
巻とらるる又用紙溢るるまを小尖片向くとらるる春秋の菟入は雜劇とらるる
主管はまをか底意地とらるる。或は傍輩の色情と妨或は宝物を搦とて
虎落小園とらるるものまを小折つるまを。まをの哀とらるるまを
かまを遠の徹とらるる備早るる主管はまを。まを十年乃年朝と化

務しと。宵と毎乃焼餅琉球芋丸買咥ひと。生涯ゆせぬ方とあり。刺被施
 布子の襟は。跣風ゆる共才と殺して。とや。その思成報さ下らん。現は。たの
 産。天いと。まか。ら。と。と。頓首再拜さ。く。綿のこ。わ。る。貨。蒲。團。一。布。の
 新。雜。と。今。入。の。お。死。下。の。ま。ま。で。と。跪。く。丁。を。鳴。呼。け。き。人。の。や。老。へ。と。丈
 八。の。紙。杭。く。目。注。し。施。く。尾。燈。さ。ら。ち。掩。ひ。く。彼。と。睡。ら。せ。我。を。外。ら。り。然
 ぞ。と。岐。花。の。明。る。子。を。睡。ら。ん。と。さ。る。ふ。い。を。寢。ら。ま。さ。結。旦。の。務。由。と。あ。り。て。
 人。より。先。に。起。し。ま。と。ま。と。何。せ。ん。ま。ぶ。の。ゆ。つ。ま。ご。お。る。道。ま。の。く。結。た。ち。野。ゆ
 公。忙。く。人。や。紙。衣。の。び。く。つ。今。宵。夫。又。侍。き。ん。と。准。備。紙。さ。る。の。め。ら。り。と。び。う。ハ
 親。に。棄。ら。ま。つ。今。又。親。紙。捐。て。や。罪。を。報。と。過。世。の。約束。許。さ。せ。て。ま。へ。と。
 白。地。の。勤。解。ぬ。數。死。の。不。深。う。か。く。その。日。れ。亭。午。こ。ろ。と。ひ。う。け。ま
 復。塚。ら。り。岐。花。が。母。詣。來。ま。り。折。り。店。ま。の。あ。り。緒。平。丈。八。波。流。も。ゆ。り



ある母親同柴の草鞋を脱て母屋のやまをよするまで岐花のこぼれをうろく
母屋のしるることありて今時うらむと来すもなるわるはばと眩が同柴のやま
うら微笑するも母が子と訪ふよと来すもなるわらひせいで外なるに流るるも
いつまで童であらうかと丈夫ひとりよものむらぐら物のはひげなまじまじと
と寝てゆくわらうと對し中稔のこく嫌じありとも目まぐ使せしむる子のは
少し親らぐら面むせざる程ひなまじと多分の岐花が力の暇をあらうとてあり
といふは岐花の紫衣を丈夫と貝紙注し主の回答をゆるぎまじとありし程つ
小勝と推向その母は何ぞやう十年の年期のわきをたよとがまじなる願言
いつぞは聴きまじと阻む我は又よえらむとせ諸平は對し又よえらむとせ
いともこの祈りかおとらめ然とて親の貪慾をく主は不足とあらはれむ
渠が徳を用り比詰びとせざる婦めありとて年來よりしる岐花は田舎人

とてありて。Sawinはせむ。Sawinはせむ。Sawinはせむ。Sawinはせむ。Sawinはせむ。
後徳田川のわらうとく。不思議は合我拾ひゆらも。こゝ小就とて惜まらるる
人のこゝたり。親の恥辱を頭とせ。岐花は只我知れぬ。知れぬ。知れぬ。
元來渠が七又八加三島の麓る。捕夫復市とゆき。一頭の天支とゆきの
年如此。このありて。合源林のせ生とて。旅客を殺せと疑れて獄屋に
繋ぎし寛柱は命を預せ。この比岐花が乳名を岐太郎とゆき。五歳なる。何
せんとも母ひとり。子ひとりの苦。苦。苦。苦。苦。苦。苦。苦。苦。苦。苦。
ある金銀を死にゆき。羽栗郡復塚なる。妹夫雜魚平とゆきの家の力を寓
うね年月を送る程。一夏妹も妹夫も時疫ゆき。力まらう。家も一個の女
あり。こゝと岐花は後むら。年二の妹とてその名澳水とゆき。妹夫の
送るるに則岐花を婿と定め。その送禮をゆき。その送禮をゆき。その送禮をゆき。

輝の首尾とてや、渾水よきとせむ五條の後よりかきとめ。こひらひらとて
 母の膝ひきとて、緒平とてひたすらに捧ぐ。さういそびと世帯しきりふ。何う瀟灑との
 むもき。衣裳櫃の馬は有り。母の共々よくぬきとあひの外よりとてこれ
 岐苑のさびゆく。さきを懶く。今宵のふ。仇はかりぬ。とうち敷くとあきと
 とも主の只怖るつら。瘰癧るさび癩く小廝を走り。岐苑があふ小荷袋を
 催せ輝速いさかのふ。さき。同柴のあがと。天八ホは飲びと逆別致告。さ子とを
 馬と牽く。復塚(ゆら)は。岐苑が計較。艸語て。逢り脱ることかかす。
 阿容(あさ)と伴。さき。羽栗郡へ。去きける。谷介の越て。後よ。さき。失ひ。夫
 八分背。口へ。さき。つら。謀の成ら。さき。骨は悔。さき。夫ハ
 駢ぶ。さき。岐苑。さき。惜む。さき。足ら。さき。さき。おひ。さき。まぐ
 む。さき。彼息女。さき。向火。さき。焼つ。さき。さき。さき。さき。さき。又

くらくらと。さき。の。さき。岐苑。を。詭欺。さき。這奴。と。少女。と。塙。傍。へ。さき。跡。より
 跟て。さき。矢。度。は。格。より。突。落。さき。誰。う。情。死。と。さき。さき。人。さき。て。患。を
 擡。んと。さき。い。は。さき。今。甲。斐。さき。か。さき。さき。も。あ。さき。と。豫。て。さき。さき。さき
 さき。の。び。の。国。戸。と。か。さき。い。お。ね。彼。駒。號。と。誰。引。出。さき。さき。港。責。せ。さき。
 患。除。く。の。さき。さき。四。五。十。金。の。徳。も。つ。さき。さき。任。て。さき。さき。さき
 中。さき。い。は。さき。谷。介。の。顔。さき。さき。さき。さき。智。は。感。伏。と。さき。さき。さき
 立。別。と。さき。さき。後。さき。お。駒。の。今。宵。走。ら。ん。と。さき。さき。白。月。の。さき。さき。駢。ぶ。さき。さき
 心の疲勞。さき。さき。その。日。を。既。は。没。る。比。より。俄。頃。は。疝。ふ。さき。結。ら。さき。て。拳。と
 握。り。さき。齒。と。切。り。さき。絶。く。黒。白。と。さき。さき。さき。緒。平。の。さき。さき。敬。勇。死。と。さき。さき。医。師。許
 小廝を走ら。さき。さき。谷。介。と。已。と。な。れ。ぬ。さき。足。方。枕。方。は。集。合。つ。さき。さき。園。宅。谷。一。女。抱
 さき。さき。立。地。へ。さき。治。ら。さき。さき。鍼。灸。茶。餅。は。臥。さき。さき。睡。ら。さき。さき。衆。皆。その。夜。さき

明^{めい}たり。か^かい^い駟^{しや}の^のま^まら^らむ^むど^ど。禍^{わざはひ}と^と脱^{だつ}せ^せ。その^{その}あ^あは^はし^しと^と夫^{おつと}八^{はち}介^{けい}が^が奸^{けん}討^{たう}の^の
 その^{その}的^{てき}外^{がい}を^をく^く。心^{こころ}を^をく^くの^の焦^{しょう}燥^{そう}と^とお^おり^りし^しけ^ける^るれ^れ大^{だい}病^{びやう}と^と扁^{へん}鵲^{せつ}の^の後^ごに^に
 又^{また}又^{また}。旋^{まわ}る^るま^まき^き術^{じゆつ}を^をみ^み。か^かて^てお^お駟^{しや}の^の次^{つぎ}の^の日^ひに^に病^{びやう}此^{こゝ}を^をこ^ころ^ろと^とや^や
 こ^こも^もふ^ふろ^ろろ^ろ。この^{この}内^{うち}ま^まと^とと^と夫^{おつと}八^{はち}介^{けい}の^の流^{りゅう}欺^きを^をと^と一^{いつ}息^{そく}を^をと^と才^{さい}
 三^{さん}郎^{らう}は^は物^{もの}束^{たつ}せ^せ。その^{その}夜^よに^に後^ごを^を病^{びやう}著^{しやく}の^のこ^こと^と疾^{しやく}く^くと^とく^くら^ら恨^{うら}め^めと^と
 既^{すで}に^に暗^{あん}号^{ごう}を^を措^そて^て。又^{また}い^いち^ち中^{ちゆう}ん^んと^とを^をく^く。只^{ただ}この^{この}ま^まに^に死^しな^なや^やと^とあ^あ
 お^おう^うろ^ろを^を死^しと^と病^{びやう}と^と几^{いく}兩^{りやう}あ^あり^り。雁^{かり}子^こ渡^{わたり}る^る季^きの^の秋^{あき}後^ご乃^{すなはち}月^{つき}を^を
 比^ひよ^よろ^ろの^のふ^ふ又^{また}生^ま憎^{にく}は^は肥^ひと^とら^らり^り。

美濃舊衣八丈綺談卷之四 終



